

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日常生活活動学演習		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	火曜日 16:20~18:00		
授業の目的・概要	対象者がどのように日常生活と関われば QOL を高めることになるのか考えることは重要である。本科目の目的は、①日常生活活動を評価する観点をも身につけること、②日常生活活動の評価結果を対象者の状態・状況に即して解釈すること、③対象者の症状・障害に応じた日常生活活動への介入方法を示すことである。これら 3 点それぞれについて講義した後、グループワーク等によって学生が主体となった検討・発表を行ってもらう。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	授業内容に関する質問は授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。疑問や不明な点は早期の解決に努め、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。				
教科書	①標準作業療法学専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 第 2 版/編:濱口豊太/医学書院/2022 年 ②脳卒中の機能評価-SIAS と FIM[基礎編]/編著:千野直一 他/金原出版/2012 年 【2 冊指定】				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	日常生活活動を評価する各種の評価手段について意義・目的を説明することができる。			OT (1)、(2)	
②	対象者の症状・障害に応じた日常生活活動評価の項目を挙げることができる。			OT (2)	
③	日常生活活動に係る基本的な評価を実施することができる。			OT (2)	
④	日常生活活動評価の結果を、対象者の状況・状態に即して解釈することができる。			OT (1)、(2)、(3)	
⑤	対象者の日常生活活動上の問題に対して、適切な介入方法を示すことができる。			OT (2)、(3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション グループ課題について ほか	講義、GW	教科書①、②の該当箇所を読んで予習する。 講義内容に沿って教科書①、②や配布資料等でポイントを確認する。 提示された発表課題に取り組み、中間報告会や 11 回目以降での発表に備える。 発表テーマに沿った教科書の該当箇所やその他の文献を読み予習する。 発表内容に関して、配布資料やその他の文献も参考にしてポイントを確認する。 発表に向けた準備をする。 これまでの学習内容を復習する。		
2	[疾患・障害別の日常生活活動支援①] 脳血管疾患①	講義、演習、GW			
3	[疾患・障害別の日常生活活動支援②] 脳血管疾患②	講義、演習、GW			
4	[疾患・障害別の日常生活活動支援③] 脊髄損傷①	講義、演習、GW			
5	[疾患・障害別の日常生活活動支援④] 脊髄損傷②	講義、演習、GW			
6	[グループ課題 中間報告会] 各グループの発表、質疑応答、討論	発表、討論、GW			
7	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑤] 大腿骨近位部骨折・THA ほか	講義、演習、GW			
8	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑥] パーキンソン病	講義、演習、GW			
9	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑦] 関節リウマチ	講義、演習、GW			
10	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑧] 呼吸器疾患	講義、GW			
11	[グループ発表①] 脳血管疾患患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
12	[グループ発表②] パーキンソン病・関節リウマチ患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
13	[グループ発表③] ALS・脊髄小脳変性症患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
14	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑨] アルツハイマー型認知症のある人の ADL 評価・支援	講義、演習、GW			

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

15	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑩] 統合失調症患者の ADL 評価・支援。これまでの総括、補足。	講義		1
試	定期試験 達成度評価、評価のポイントを参照			

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		65	0	35	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	30	0	5	0	0	35
	思考・推論・創造する力	20	0	15	0	0	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	15	0	10	0	0	25

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	授業で学んだ教科書、資料、口頭説明、グループ発表等の内容に基づいた内容が出題され、それぞれについてどの程度理解できているかが主に問われる。	全体に向けた講評を Teams 上で行い、必要に応じてリモート・対面等で個別に振り返りを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	提示されたテーマについて、評価の視点や日常生活活動上の課題(問題点)を挙げ、ADL 障害像を説明し、その課題に対する具体的な介入方法を示してもらおう。積極的に文献にもあたり、明確な根拠を示すことを心掛けてほしい。グループ発表となるが、個々の役割遂行や成果も重視するため、能動的に行動することが求められる。	発表準備時や発表後に意見交換とフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	担当する教員は作業療法士として 10 年以上の臨床経験を有する。
実践的授業の内容	テキストと併せて臨床での評価、治療を通して得た知見に基づき講義を展開する。
そ の 他	授業に臨む上での決め事を遵守すること。問題がある場合は退室してもらいます。